

エコアクション 21 環境経営レポート

2024 年度
(2024 年 3 月～2025 年 2 月)



株式会社 ニシトク

2025 年 4 月 10 日発行

目 次

I. 組織の概要	1～4
II. 環境経営方針	5
III. 環境経営目標	6
IV. 環境経営計画	7
V. 環境経営目標と実績	8
VI. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）	9
VII. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	10
VIII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	11
IX. 代表者による全体評価と見直し・指示	12
X. 2025 年度環境経営目標	13
XI. 2025 年度環境経営計画の取組内容	14

I.組織の概要

【事業所及び代表者名】

株式会社 ニ シ ト ク
代表取締役 西村 道博

【所 在 地】

本社・本社工場 〒959-1381 新潟県加茂市新栄町 9-36
須田工場 〒959-1303 新潟県加茂市大字後須田字二反詰 2584-1
田上倉庫 〒959-1513 新潟県南蒲原郡田上町川船河甲 1350-137

【環境管理責任者及び担当者連絡先】

環境管理責任者 : 西村 太佑
TEL0256-52-4811 FAX0256-52-1229
E-mail n.daisuke135@nishitoku2419.co.jp

【事業の内容】

再生資源の回収、再生及び再生資源加工品の販売
一般廃棄物収集運搬及び処分（中間処理）
産業廃棄物収集運搬及び処分（中間処理）

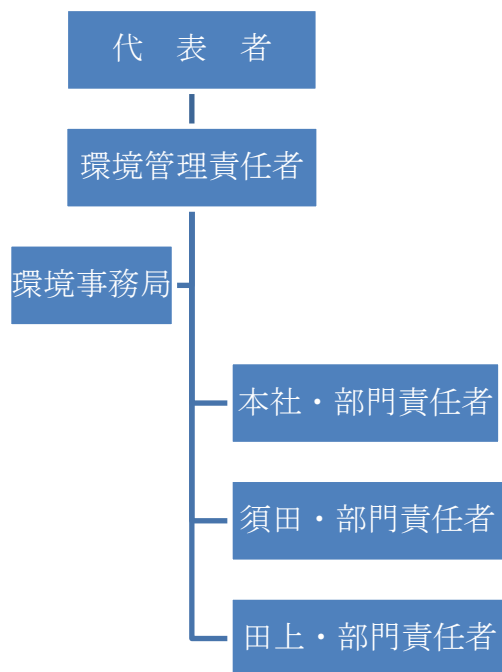
【事業の規模】

設立年月日 1955 年 3 月 1 日
資 本 金 1,000 万円
売 上 高 182.77 百万円（2024 年度）
従 業 員 12 人
床 面 積 2,429.18 m²（総敷地面積）

【認証・登録の範囲】

全組織・全活動とする。

【実施体制図】



	役割・責任・権限
代表者（社長）	① 環境経営方針の策定 ② 環境経営に関する総括責任者及び実施体制の構築 ③ 環境管理責任者の任命 ④ 環境資源（人・設備・費用）の準備 ⑤ 環境経営目標及び環境経営計画の承認 ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直しの実施 ⑦ 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	① 環境経営目標・環境経営計画の確認 ② 環境経営システムの構築、実施、管理、継続的改善 ③ 環境関連法規等の遵守状況の確認 ④ 環境上の緊急事態への対応及び訓練の確認 ⑤ 環境上の緊急事態の想定及び対応策の策定、訓練計画の策定及び訓練結果の確認 ⑥ 環境経営システムの取組結果を代表者へ報告
部門責任者	① 自部門に関する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ② 自部門の問題点の発見と是正、予防処置の実施
環境事務局	① 環境活動に関する実績の取りまとめ及び環境関連文書の作成、記録の管理 ② 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ③ 環境経営レポートの作成
全従業員	① 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

【許可の内容】

許 可	許可番号	許可年月日	事業の範囲	
		許可有効年月日	区分	廃棄物の種類
加茂市 一般廃棄物処理業	加環許可第 3-1 号	令和 5 年 5 月 10 日	収集・運搬	可燃物・不燃物・粗大ごみ
		令和 7 年 5 月 9 日		廃家電リサイクル品
田上町 一般廃棄物処理業	許第 6 号	令和 5 年 4 月 1 日	収集・運搬	可燃物・不燃物
		令和 7 年 3 月 31 日		廃家電リサイクル品
新潟県 産業廃棄物処分業	1523085284	令和 3 年 7 月 15 日	中間処理 (圧縮処理)	廃プラスチック類、金属くず(以上、 石綿含有産業廃棄物を除く。)
		令和 8 年 7 月 9 日		
新潟県 産業廃棄物収集運搬業	1503085284	令和 3 年 7 月 15 日	収集運搬 (積替え・保管を除く。)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 (以上、石綿含有産業廃棄物を除く。)、汚泥、ゴムくず、金属くず(以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。)
		令和 8 年 7 月 9 日		
新潟県 廃棄物再生事業者	(登) 6 第 601 号	平成 6 年 9 月 1 日		古紙の再生

2025 年 2 月 28 日現在

【施設の状況】

(1) 収集運搬車両及び構内荷役車両

車 種	台数	最大積載量	備 考
4 t パッカー	2	3,000 kg	本社工場
4 t アームローラー	3	2,600～3,000 kg	〃
2 t ダンプ	1	2,000 kg	〃
フォークリフト	6	1,350～2,350 kg	本社工場 3 台、須田工場 2 台、田上倉庫 1 台
油圧ショベル	1		須田工場 (マグネエース仕様)

(2) 設備の種類及び処理能力

品 名	台数	能 力	備 考
ベラーマシーン	1	28 t/日	本社工場
新聞選別コンベヤーライン	1	6HP (総馬力)	〃
アリゲータープレス	1	30 t/日	須田工場
トロンメル	1	35 m ³ /Hr	〃
トラックスケール	3	2 t 及び 40 t	本社工場 2 t 及び 40 t、須田工場 40 t

(3) 産業廃棄物処理施設の種類及び処理能力

施設の種類	処理能力	面積	備考
圧縮処理	廃プラスチック類 12.36 t/日	7.50 m ²	須田工場
	金属くず 15.45 t/日	171.79 m ²	

(4) 処理工程図

<紙 類>



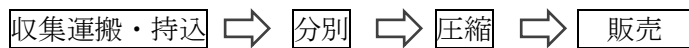
<非鉄金属類>



<鉄類>



<ペットボトル>



【処理実績】

(単位：t)

区 分	2022 年度	2023 年度	2024 年度
購入した有価物（再生資源）の量	2,187.90	2,020.39	2,165.98
上記のうち再生資源化量	2,187.90	2,020.39	2,165.98
一般廃棄物収集運搬量	492.68	539.77	521.89
一般廃棄物中間処理量	308.03	386.43	384.60
産業廃棄物収集運搬量	143.20	123.05	83.54
産業廃棄物処理量	14.21	12.32	6.28

Ⅱ.環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基 本 理 念

事業において法令を遵守し、持続可能な経済発展と循環型社会構築の実現に取り組み、使用されるエネルギーの削減を自らが考え、事業として扱う廃棄物を分別する事で再生資源化率 100%を目指し、資源の有効利用に寄与する。

基 本 方 針

1. 二酸化炭素排出量の低減に努める。
2. 自社排出廃棄物の低減に努める。
3. 事業として扱う廃棄物の再資源化率を高める。
4. 削減した水使用量は現状維持に努める。
5. グリーン購入の推進に努める。
6. 環境関連法規等を遵守する。
7. 社員教育を計画的に行い、環境保全への意識の向上に努める。
8. この環境方針を社内に提示し、全社員に周知する。

制定日：2009年3月30日

改訂日：2021年4月26日

株式会社 ニ シ ト ク

代表取締役 西村道博

Ⅲ.環境経営目標

項 目	単 位	基準値 (2021 年 度)	目標年度			
			2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
(1) 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	53,998	53,998	53,998	53,998	53,998
(2) 購入電力量 (現状維持)	kWh	8,214	8,214	8,214	8,214	8,214
(3) ガソリン使用量 (現状維持)	ℓ	4,888	4,888	4,888	4,888	4,888
(4) 軽油使用量 (現状維持)	ℓ	14,621	14,621	14,621	14,621	14,621
(5) 灯油使用量 (現状維持)	ℓ	760	760	760	760	760
(6) 一般廃棄物 (可燃ごみ)	常に低減に努める。					
(7) 水使用量	常に節水に努める。					
(8) グリーン購入	消耗品等の購入時にはグリーン購入に配慮する。					
(9) 社員教育 (訓練)	-	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年
(10) 地域貢献 (ボランティア活動)	-	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年

※これ以上の削減は困難な為、2021 年度の実績値を基準値とし現状を維持する。

※一般廃棄物及び水使用量の削減については、維持管理項目とする。

※グリーン購入については、出来る限りエコマーク商品及び再生利用品の購入に努める。

※PRTR 制度対象化学物質の使用がない為、目標設定は行わない。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、調整後排出係数を用いている。

令和 2 年度 東北電力 0.457 kg - CO₂/kWh エネット 0.372 kg - CO₂/kWh Looop 0.489 kg - CO₂/kWh

IV. 環境経営計画

項 目	活 動 項 目	担 当
電力の二酸化炭素排出量の削減	1. 未使用時の消灯の徹底	環境事務局
	2. 外出時などのパソコン等の電源オフ	
	3. 待機電力カットの徹底	
	4. 冷房 28℃・暖房 20℃の徹底	
	5. 小型ストーブの有効活用	
	6. フィルターの定期清掃（年 1 回）	
燃料の二酸化炭素排出量の削減	1. タイヤの空気圧の適正化（点検月 1 回）	部門責任者
	2. 省エネ運転の推進	
	3. 収集ルート効率化	
	4. 作業機械の効率化	
	5. 暖房の設定温度の適正化（20℃）	環境事務局
廃棄物排出量の削減	< 自社排出廃棄物 >	
	1. 再利用・再生利用の向上	環境事務局
	2. 裏紙使用・封筒の再利用の徹底	
	3. 不要 FAX は印刷しない	
	4. 事務所から排出されるごみの把握	
	< 事業として分別した廃棄物 >	
	1. 再資源化率の向上	部門責任者
	2. 受け入れた廃棄物の分別の徹底	
水使用量の削減	1. 水漏れの点検	部門責任者
	2. 洗面所の節水	
	3. 洗車時等は水道栓をこまめに開閉する	
	4. クーリングタワーの点検（年 1 回）	
グリーン購入	1. エコマーク商品を購入	代表者（社長） 環境事務局
	2. グリーン購入対象品を購入	
社員教育	1. 環境についての知識の共有（講話）	全従業員
	2. セミナー等への参加（報告会）	
	3. 訓練での手順の適切性・有効性の確認	
地域貢献活動	1. 清掃美化活動への参加	全従業員
	2. 本社・須田工場周辺の清掃	

V. 環境経営目標と実績

2024 年度（2024 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日）

項 目	単 位	基準値	目 標	実 績	評 価 ○達成×未達成
				削減率%（対目標値）	
(1) 二酸化炭素排出量	kg・CO ₂	53,998	53,998	52,689 (△2.4%)	○
(2) 購入電力量 (現状維持)	kWh	8,214	8,214	9,625 (+17.2%)	×
(3) ガソリン使用量 (現状維持)	ℓ	4,888	4,888	3,217 (△34.2%)	○
(4) 軽油使用量 (現状維持)	ℓ	14,621	14,621	15,019 (+2.7%)	×
(5) 灯油使用量 (現状維持)	ℓ	760	760	810 (+6.6%)	×
(6) 一般廃棄物(可燃ごみ)	-	-	低減に努める	10%程増加した	×
(7) 水使用量	-	-	節水に努める	7%程増加した	×
(8) グリーン購入	-	-	配慮する	配慮した	○
(9) 社員教育 (訓練)	-	2 回/年	2 回/年	1 回	×
(10) 地域貢献 (ボランティア活動)	-	1 回/年	1 回/年	2 回	○

評 価

◎電力量は、作業機械の使用が増加している中、効率的な稼働を行ったが目標値を達成できなかった。夏の異常気象の影響も大きいと考える。

◎燃料使用量は、仕事量の減少や働き方改革で休みが増えている中、省エネ運転や収集ルート効率化を行ってはいたが軽油使用量は僅かに増加した。

◎灯油使用量は、大雪の影響により僅かに増加した。体に影響を与えない程度に温度管理を徹底する。

◎二酸化炭素排出量は、ガソリン使用量が減少した影響により削減となり、目標値を達成できた。

◎一般廃棄物量は、事務所から排出される可燃ごみのみの把握としたが、僅かに増加した。更なる分別を心がける。

◎水使用量は、須田工場の水漏れが発覚し使用量が増加した。(劣化の為) これまでと同様に節水に努める。

◎グリーン購入は、エコマーク商品の購入に配慮した。

◎ガイドラインでは可能な限り数値化することとされている為、次年度より一般廃棄物排出量及び水使用量の目標を数値化する。

VI. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

2022 年 3 月～2025 年 2 月

環境への負荷			単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
1. 二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	51,555	49,522	52,689
2-1. 一般廃棄物取扱量 (行政委託)	収集運搬及び処理量		t	520.78	582.99	563.55
	中間処理量		t	336.98	386.54	384.76
	うち再資源化等量		t	288.47	368.62	367.24
	最終処分量（単純焼却）		t			
	中間処理後の一廃の処分量		t			
	うち再資源化等量		t			
2-2. 一般廃棄物取扱量 (民間委託)	収集運搬及び処理量		t	30.17	20.77	23.01
	中間処理量		t	1.94	0.11	0.16
	うち再資源化等量		t	1.94	0.11	0.16
	最終処分量（単純焼却）		t			
	中間処理後の一廃の処分量		t			
	うち再資源化等量		t			
3. 受託した産業廃棄物の 処分量	収集運搬量のみ		t	143.20	123.05	83.54
	収集運搬及び処理量		t	14.21	12.32	6.28
	中間処理量		t	14.21	12.32	6.28
	うち再資源化等量		t	14.21	12.32	6.28
	最終処分量（単純焼却）		t			
	中間処理後の産廃の処分量		t			
	うち再資源化等量		t			
4. 廃棄物排出及び廃棄物 最終処分量	一般廃棄物	(排出)	kg	137	2,249	146
		(循環・リサイクル)	kg	70	73	75
		最終処分量（単純焼却）	kg	67	2,176	71
	産業廃棄物	(排出)	t	5.45	4.01	5.85
		(循環・リサイクル)	t	5.45	4.01	5.85
		最終処分量	t			
5. 水使用量	上水		m ³	65	101	75
6. 化学物質使用量	PRTR 制度対象物質を使用していない		kg			

VII. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

項 目	活動項目	評価	結果と次年度の取組内容
電力の二酸化炭素排出量の削減	未使用時の消灯の徹底	○	終業時の電源オフの確認を守った。今後も継続。
	外出時などのパソコン等の電源オフ	○	意識して行った。今後も継続。
	待機電力カットの徹底	○	意識して行った。今後も継続。
	冷房 28℃・暖房 20℃の徹底	○	使用時に温度管理を行った。今後も継続。
	小型ストーブの有効活用	○	有効に活用できた。今後も継続。
	フィルターの定期清掃（年 1 回）	○	大掃除の時に清掃を行った。今後も継続。
燃料の二酸化炭素排出量の削減	タイヤの空気圧の適正化（点検月 1 回）	○	今後も継続。
	省エネ運転の推進	○	朝礼等で意識づけた。今後も継続。
	収集ルート効率化	○	朝礼等で意識づけた。今後も継続。
	作業機械の効率化	○	古紙類をためてから、作業を行った。今後も継続。 ベーラーマシンの使用頻度が増える中、効率的な稼働ができています。
	暖房の設定温度の適正化（20℃）	○	温度、使用量の管理を行った。今後も継続。
廃棄物排出量の削減	再利用・再生利用の向上	○	分別はできている。今後も継続。
	裏紙使用、封筒の再利用の徹底	○	裏紙使用、封筒の再利用できた。今後も継続。
	不要 FAX は印刷しない	○	不要 FAX は印刷しなかった。今後も継続。
	再生資源化率の向上	○	分別した廃棄物は、100%再生資源化出来た。
	受け入れた廃棄物の分別の徹底	○	分別の徹底を行った。今後も継続。
水使用量の削減	水漏れの点検	△	須田工場→劣化の為、水漏れあり。確認を徹底する。
	洗面所及びトイレの節水	○	節水を心がけた。今後も継続。
	洗車時等は水道栓をこまめに開閉	○	意識して行った。今後も継続。
	クーリングタワーの点検（年 1 回）	○	年 1 回の点検を行った。今後も継続。
グリーン購入	エコマーク商品を購入	○	コピー用紙、ファイル等を購入。今後も継続。
	グリーン購入対象品を購入	－	購入なし。
社員教育	環境についての知識の共有	○	朝礼や夕方に報告などを行った。今後も継続。
	セミナー等への参加（報告会）	○	夕方に報告会を行った。今後も継続。
	訓練での手順の適切性・有効性の確認	△	1 回行った。早めに計画をし実行する。
地域貢献活動	清掃美化活動への参加	○	参加出来た。今後も継続。
	本社・須田工場周辺の清掃	○	積極的に行った。今後も継続。

評価 ○：達成 △：もう少し ×：未達成

VIII. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟などの有無

(1) 環境関連法規と遵守状況

法規等の名称	摘要内容	評 価
廃棄物処理法	一般廃棄物処理業許可の確認	○
	産業廃棄物処分業、収集運搬業許可の確認及び委託契約	○
	自社による運搬時の表示・書類の携帯	○
	マニフェストの管理・保管	○
	産廃管理票交付等状況報告の提出	○
	現地にて処理の状況についての確認	○
	通知 10 日以内、保管 5 年	○
騒音・振動規制法	特定工場等ではないが、自主的に年 1 回の測定	－
浄化槽法	2021 年 3 月に下水道の接続工事を行った為、点検は必要なくなった	－
フロン排出抑制法	回収依頼書の写し、引取証明書	○
	定期点検、業者点検（家庭用のため必要なし）	－
家電リサイクル法	適正に引き渡し、リサイクル料金を支払う	○
自動車リサイクル法	引取業者への引き渡し	○
消防法	消防用設備、自動火災報知設備の点検	○
道路交通法	過積載の防止	○
	積載物の飛散防止	○
道路運送車両法	定期点検	○
労働安全衛生法	健診診断	○
	機械等定期自主点検	○
	化学物質のリスクアセスメント（化学物質の使用はない）	－
電気事業法	定期点検（4 年に 1 回）	○
計量法	電気抵抗式はかり検査（2 年に 1 回）	○

確認日：2025 年 2 月 17 日

評価 ○：遵守している ×：遵守していない

(2) 違反、訴訟などの有無

自主点検した結果、当社における環境関連法規への違反はありません。又、関係行政機関からの違反・訴訟・指導也没有ありません。更に、近隣地域住民からの苦情也没有ありません。

IX.代表者による全体評価と見直し・指示

実施日	2025 年 4 月 10 日		
出席者	代表取締役、環境管理責任者		
前回の指示への 取組結果	購入電力量、軽油使用量、灯油使用量、一般廃棄物、水使用量、社員教育は目標を達成出来なかった。達成出来なかった項目に対しては見直しを行い、次年度は目標を達成出来るように努力する。		
使用した資料	エコアクション 21 記録、環境経営レポート		
代表者の評価	目標を達成出来なかった項目の CO²に係る購入電力量、軽油使用量、灯油使用量については、重点を置き今後も管理する。 社員教育については、全社員が取組内容を理解できるように継続した指導を行う。 知識→行動→改善→数値の削減→CO²の削減へ 今年度で行政からの委託業務の形態が整ったので、環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の見直しを行い目標達成に努める。		
見直しの結果	見直し項目	変更の有無 (該当項目を■)	変更の内容
	① 環境経営方針	■有 □無	文章の追加及び変更
	② 環境経営目標	■有 □無	一般廃棄物排出量や水使用量の数値化
	③ 環境経営計画	■有 □無	目標の数値化に伴って計画を追加及び変更
	④ 環境システム	□有 ■無	
	⑤ 実施体制	□有 ■無	

X.2025 年度環境経営目標

項 目	単 位	基準値	環境経営目標（基準年比削減率％）			
			2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
(1) 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	54,869	54,810	54,757	54,700	54,644
(2) 購入電力量	kWh	9,511	9,501 (△0.1%)	9,492 (△0.2%)	9,482 (△0.3%)	9,473 (△0.4%)
(3) ガソリン使用量	ℓ	3,277	3,273 (△0.1%)	3,270 (△0.2%)	3,267 (△0.3%)	3,263 (△0.4%)
(4) 軽油使用量	ℓ	14,391	14,376 (△0.1%)	14,362 (△0.2%)	14,347 (△0.3%)	14,333 (△0.4%)
(5) 灯油使用量	ℓ	780	779 (△0.1%)	778 (△0.2%)	777 (△0.3%)	776 (△0.4%)
(6) 一般廃棄物（可燃ごみ）	kg	67.2	67.1 (△0.1%)	67.1 (△0.2%)	67.0 (△0.3%)	66.9 (△0.4%)
(7) 水使用量	ℓ	88.0	87.9 (△0.1%)	87.8 (△0.2%)	87.7 (△0.3%)	87.6 (△0.4%)
(8) 再資源化率の向上	％	-	100 (維持)	100 (維持)	100 (維持)	100 (維持)
(9) グリーン購入	消耗品等の購入時にはグリーン購入に配慮する。					
(10) 社員教育（訓練）	-	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年
(11) 地域貢献 （ボランティア活動）	-	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年	1 回/年

※市町の一般廃棄物の収集体制の変更や分別項目の増加、作業機械の稼働率の上昇、燃料使用量の減少など様々な影響により、環境経営目標の設定の見直しを行った。2023 年～2024 年の実績値の平均を基準値として、4 年間の環境経営目標を定めた。

※基準値は、2023 年～2024 年の実績値の平均とする。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和 5 年度の調整後排出係数を使用する予定。

※2025 年度より再資源化率の向上を環境経営目標に設定する。有価物及び廃棄物の再資源化率 100％を心がけ、再資源化する施設へ持ち込みする。

XI.2025 年度環境経営計画の取組内容

項 目	活 動 項 目	担 当
電力の二酸化炭素排出量の削減	1. 未使用時の消灯の徹底	環境事務局
	2. 外出時などのパソコン等の電源オフ	
	3. 待機電力カットの徹底	
	4. 冷房・暖房の温度は柔軟に設定	
	5. 小型ストーブの有効活用	
	6. フィルターの定期清掃（年 1 回）	
	7. 作業機械の効率化	
燃料の二酸化炭素排出量の削減	1. タイヤの空気圧の適正化（点検月 1 回）	部門責任者
	2. 省エネ運転の推進	
	3. 収集ルートの効率化	
	4. 暖房の温度は柔軟に設定	環境事務局
廃棄物排出量の削減	< 自社排出廃棄物 >	
	1. 再利用・再生利用の向上	環境事務局
	2. 裏紙使用・封筒の再利用の徹底	
	3. 不要 FAX は印刷しない	
	4. 事務所からの廃棄物排出量の把握	
	< 事業として分別した廃棄物 >	
	1. 再資源化率の向上	部門責任者
	2. 受け入れた廃棄物の分別の徹底	
水使用量の削減	1. 水漏れの点検	部門責任者
	2. 洗面所の節水	
	3. 洗車時等は水道栓をこまめに開閉する	
	4. クーリングタワーの点検（年 1 回）	
グリーン購入	1. エコマーク商品を購入	代表者（社長） 環境事務局
	2. グリーン購入対象品を購入	
社員教育	1. 環境についての知識の共有	全従業員
	2. 安全の確保	
	3. 訓練での手順の適切性・有効性の確認	
地域貢献活動	1. 清掃美化活動への参加	全従業員
	2. 本社・須田工場周辺の清掃	